

## アービングハウスツアー 日本語版

アービングハウスへようこそ。アービングハウスは本土の下の方で、そのままの形で残っている最も古い家です。

アービングハウスは、**1865**年に建てられ、**1950**年までアービング一家が住んでいました。当時、アービングハウスは**10,000**ドルで建てられ、その価格はすごいお金持ちの人の年収と同じくらいでした。アービングハウスが建てられた場所は、クラークソンからウィリアム・アービングが**4,000**ドルで購入しました。以前、アービング一家はビクトリアに住んでました。このコロニアル様式の家は、ゴシック/リバイバル様式で建てられています。

キャプテン、ウィリアム・アービングは**1816**年、スコットランドのダンフリース、アナンで生まれました。ウィリアムが**15**歳のとき、キャビンボーイ（客船の船客付きのボーイ）として初めて海に行き、**19**歳のとき、ウィリアムは最初の仲間を作りました。そして**10**年後、ウィリアムは自身の船のキャプテンになり、**1849**年、カリフォルニアへ向かいました。

やがて、キャプテンアービングは、ポートランドのオレゴン州へ向かいました。そこで彼は、のちに妻となるエリザベス・ジェーン・ディクソンと出会いました。**1851**年**9**月**27**日に彼らは結婚しました。そのとき、キャプテンアービングは**38**歳、妻のエリザベスは**18**歳でした。夫婦

はビクトリアに引っ越す前、オレゴン州で4人の子供、メアリー（1852年12月25日）、ジョン（1854年11月24日）、スーザン（1857年3月10日）、そしてエリザベス（1859年12月29日）に恵まれた。また、ビクトリアで5人目の子供、ネリー（1863年11月12日）が生まれた。アービング一家は、カリブーのゴールドラッシュを目当てに、ビクトリアにやって来ました。そこで、キャプテンアービングはニューウェストミンスターからイエールまでのフリーザー川沿いの川船管理に携わるようになりました。キャプテンアービングは、金の鉱夫のためにフリーザー川に安全で効率的なパドルホイールサービスを提供し、だんだんお金持ちになっていきました。

### アービングハウスのお話

1862年、キャプテンアービングはビクトリア州で、リアランスという名の新しい船尾外輪船を始めた。そのセレモニーで、キャプテンアービングは子育てのつかの間の休息を取った。どうやら、そのイベントには、8歳のジョン・アービングがしていた。彼は、自由に騒ぎ、シャンパンを飲んで参加した。このことにより、彼は酔っ払ってしまい、彼の父親の従業員のうちの1人に家まで送ってもらわなければならなかった。そんなありさまのジョンを見て、彼の母親のエリザベスは、医者を呼び、その医者はエリザベスにジョンの酔いがばれないように気をつけ、ジョンの診断を酔いとは別のものにした。

1872年、キャプテンアービングは、両側性肺炎で亡くなりました。当時、彼は56歳でした。彼のお葬式は、8月30日、アービングハウスで行われました。未亡人になったエリザベスは、子育てが終わるまでの13年間、アービングハウスに住んでいました。1885年、エリザベスは、ポートランドのオレゴン州へ引っ越し、いつも自分の家のことを考えていました。

キャプテンアービングの唯一の息子、ジョンは1872年、彼が17歳の時に父親のビジネスを引き継ぎました。ジョン・アービングは、1883年6月12日、ビクトリアでジェーン・マンローと結婚しました。彼らは、3人の子供に恵まれました。そのうちの1人に、ウィリアム・アレキサンダーという息子がいました。アレキサンダーは、1916年、第1次世界大戦で、スモアのアルバートで亡くなりました。彼の死は、アービング家の父系の血統の終わりを告げました。

メアリー・アービングは、1874年、トーマス・ラッシャー・ブリッグスと結婚し、そして、1884年10月3日、彼女の兄弟のジョンが経営していた公的オークションでアービングハウスを買収しました。アービングハウスの所有権は、譲渡証書によって移されました。不動産法の用語で言うと、ある人物からほかの人物への物件の譲渡を命令することです。ブリッグスはアービングハウスで9人の子供を育てました。彼らの1番下の2人の娘、ナオミとマニ

ユエラは、結婚せずに、1950年に博物館として町にアービングハウスを売るまで住み続けました。

### ニューウェストミンスターのお話

1857年にイエールで発見された金は、世界中からブリティッシュコロンビアに、多くの資産家たちが運んできた。しかし、当時、英国北アメリカの西海岸でたった1つの植民地は、本土から離れた島であるビクトリアだけだった。???イギリス人は、もし本土に植民地の存在を開発しなければ、アメリカ人が地域編成をするかもしれないという不安があった。この不安をなくすために、イギリス人は、その地域に、彼らの統制と野心に尽くす助けとして、本土に植民地を置くことが決まった。その町の元の場所はダービー（現在のポート・ムーディー）にあったことを意味しています。しかし、リチャード・クレメント・ムーディーは、河口から出航したとき、急な斜面でたくさん木がある地域があることに気が付きました。そして、リチャードは、ダービーからこの地域に新しい植民地を移すことを決めました。その急斜面は、戦略面にも防御面にも適しており、アメリカからの攻撃を撃退するのは、簡単でした。ムーディーは、ブリティッシュ・コロンビアのロイヤル・エンジニアたちに離脱を命じました。ブリティッシュ・コロンビア

## 小さな応接間

その建物に入ると、あなたの右側にその小さな応接間があります。1番最初にあなたが気づくのは、この部屋が非常に贅沢だということでしょう。この部屋は、家族が正式に印象づけたいお客さんを接待するときに使用されていました。また、その部屋には、その家族が所有している高価な家具や財産、家族写真が取り付けられていました。この部屋に子供たちが入ることは許されておらず、この部屋のドアはほとんど閉められた状態だったそうです。

暖炉（偽の大理石で仕上げられたもので、実際はスレートで出来ている。）の上に、キャプテンアービングの写真があります。その左側には娘のメアリー・ブリッグスの結婚式の写真があり、反対側には、夫のトーマス・ラッシャー・ブリッグスの写真があります。右側の壁には、キャプテンアービングと妻のエリザベスの結婚式のときの写真があり、その間に彼らの息子、ジョンの写真があります。そして、エリザベスの写真の右側に4人の娘の写真があります。また、左側の壁には、トーマスとメアリー、そして彼らの9人の子供の写真があります。

メアリーの家族が引っ越してきたとき、壁はしっくいを塗られているだけで、壁紙は貼られていませんでした。

1887年まではしっくいの壁でしたが、メアリーがアービングハウスのリフォームを行い、壁紙が貼られました。そのとき貼られた壁紙は、オリジナルのもので、1887年の

ものです。この部屋にあるほとんどの家具は、アービング家とブリッグス家のオリジナルのもので、この部屋のカーペットも 1887 年のものです。

### 家具について

この部屋のほとんどの家具が、アービング一家のオリジナルの家具です。ソファーや二つの黒いイスは、エリザベスが 1850 年か 1852 年にまず、ミズーリ州からオレゴン州のポートランドに渡り、さらにオレゴン列車で運ばれたといわれています。そのソファーには、綿の代わりに本物の馬の毛が詰められており、チクチクしたそうです。その

### 大きい居間

大きい居間は、ダイニングルームとも呼ばれており、小さな応接間からホールの向かい側に位置します。この部屋は現代のリビングと同じようなもので、家族の集まりのときなどに使用されてきました。女性たちはここでアフタヌーンティーを楽しみ、子供たちは音楽を学び、女の子たちは、座って、縫製、刺繍、クロスステッチを学びました。その家族は、日曜日の午後はこのダイニングルームで過ごしていました。大人たちは、夕食後や教会に行った後などに使用し、ピアノを弾くなどといったエンターテイメント

を楽しんでいました。この部屋の壁紙とカーペットは、オリジナルのもので、これらも **1887** 年にリフォームされています。リフォームする前は、しっくい壁だったのでしょう。屋根の棟のほーサー・ロープのデザインは、キャプテンアービングの海上輸送事業を表しています。

この部屋は、キャプテン・ウィリアム・アービングが亡くなって、彼の葬儀でおそらく使用されただろうといわれています。

暖炉の上の大きな金の鏡は、**1874** 年、トーマス・ラッシャーと彼の妻、メアリー・アービングの結婚したときのプレゼントだったが、メアリーが未亡人の母親から家を購入し、引っ越したあと、**1884** 年までその家にその鏡が飾られることはありませんでした。

ソファの上のお人形は、日曜人形と呼ばれていたそうです。その人形には、磁器の頭と下腕があります。日曜人形は、子供が日曜日にだけ遊ぶことを許されたものだといわれています。

## フロントホール/正面玄関

ここの天井の高さは、**12** フィートで、階段は **23** 段あります。（現在の天井の高さは **8** フィートで、階段は **13** 段）天井の円形模様は、その家のならわしの特徴です。その天井の円形模様は、キャプテン・ウィリアム・アービングの

スコットランドの遺産とキャプテンアービングが自身の花嫁と出会ったポートランドを指すアザミの花で構成されています。玄関と廊下の壁紙とカーペットは、**1953**年に博物館として改築した際に設置されました。

➤ 階段を上がる

## 子供部屋

この部屋は、主に子供部屋として使われていました。子供たちが成長すると、部屋はシンプルな寝室として使われていたでしょう。ブリッグス家がその家に住んでいたとき、彼らは、住み込みの乳母を雇っていました。乳母は、この部屋で寝泊りしていたといわれている。



## この部屋の小物について

明るい色の家具や小物は、ブリッグス一家の人たちが所有していました。

ドレッサーに取っ手が横に着いたカップがあります。これは、病人がカップの注ぎ口から薬を服用することが出来るので、座る必要はありません。

ベッドの隣にある写真は、プリンセス・ビクトリアが4歳のころのもので、ロンドンのダルウィッチ・ギャラリーにあるものです。

ドレッサーの上に青色の瓶があります。これは、夜にランプとして使用されてきました。小さな子供たちは、真っ暗なところを怖がるので、この中にろうそくを入れて、灯していたそうです。そうすると、子供たちがよく眠れていました。

(現在、この人形はアービングハウスではなく、アンビルセンターにほかんされているそうです。)

## マスターベッドルーム

ホールからバルコニーのほうに行き、その右側にマスターベッドルームがあります。この部屋は、キャプテンアービ

ングと、妻のエリザベスが使用していました。この部屋の家具のうち、いくつかはこの家族のオリジナルのもので、ベッドや大理石のトップドレッサー、そしてその2つの椅子が含まれます。この家は、流れている水が利用できる前に建てられているので、部屋の中に水差しと洗面台がいくつかあることに気づくでしょう。また、尿瓶も部屋にあり、夜の間だけ使われていたと言われています。なぜなら、野外のお手洗に行くには、とても暗い上に、寒いので、そこまで行くのが困難だからです。そして、この部屋には、隣の子供部屋に通じるドアがあることにも気づくでしょう。このドアは、この家が建てられた後に取り付けられたものだといわれています。そのように言われている理由として挙げられるのは、開いているドアのフレームとその横にあるクローゼットのドアのサイズ異なっているからです。小さな鋳鉄製ストーブは、この部屋のオリジナルのもので、冬は、暖かく保ち、すてきな空間だったのでしょう。また、どのベッドルームにも似たようなストーブがあったといわれています。

そのクローゼットは、ビクトリア朝の家では、珍しい特徴があります。なぜなら、そのクローゼットは、作るのにとても高額で、かなりのスペースを必要とするからです。実際、すべてのベッドルームにあるクローゼットは、アービング一家の富を証明しています。

## 女の子たちの部屋

マスタールームからホールを挟んだ向かい側には、女の子たちの部屋として知られているベッドルームがあります。ビクトリア時代では、子供たちに自分のベッドルームがあることは、稀でした。なので、一家の女の子、男の子たちは、それぞれひとつの部屋を共に使用していました。この部屋はアービング一家の4人の娘、メアリー、スーザン、エリザベス、そして、ネリーが共に使用していました。その部屋は、典型的な若い女性の部屋がどのように見えるか示すようにセットされています。部屋に入って左に大きなディスプレイがふたつあります。このディスプレイは、クローゼットとして使われていました。ふたつのクローゼットのうちひとつは、この部屋に通じていて、もうひとつは、隣の部屋に通じていました。アービングハウスが、町の所有物になったとき、そのクローゼットは、ディスプレイのケースに変えられました。

左側のディスプレイケースの中の左の方には、チェック柄のドレスがあります。このドレスは、メアリー・アービングのちのメアリー・ブリッグスの所有していたドレスで、このドレスを着た彼女の写真が右奥にあります。右側のドレスは、アービング家で1番下の娘、ネリーのウェディングドレスです。またこのディスプレイケースの中には、当時の女性が日常生活で使用していたさまざまな小物も展示しています。このディスプレイケースの床には、さまざま

まな髪飾りも展示しています。ビクトリアの女性にとって、ヘアアクセサリは、とても重要なものでした。なぜなら、彼女たちにとって、髪の毛は、美しさの証だったからです。また、女性の美しさは、ありのままの姿であり、人工的に高める必要はないという一般的な意見があったため、女性たちはできるだけ髪の毛を長くし、お化粧はしませんでした。

右側のディスプレイケースの中にある、旅行用のトランクの上に青いドレスがあります。これは、エリザベスが若いころ着ていたものです。彼女はインディアナ州でうまれました。彼女とその家族がポートランドのオレゴン州に永住する前に、オレゴンの列車で横断するという危険な旅をしました。このドレスは、アメリカを旅しているときに着ていたものです。このケースには、キャプテンアービングが船で使用していたナビゲーションの道具に似ているものや、家族の写真がいくつかあります。また、椅子の上には、赤毛で磁器の人形があります。この人形は、キャプテンアービングの孫で、スーザンの娘、メアリー・アイリーン・コックスが所有していました。その人形はメアリー・アイリーン自身の髪の毛が使用されており、キャプテンアービングと同じ髪の毛の色だといわれています。メアリー・アイリーンの写真は、ディスプレイケースの右下にあります。髪の毛が本当に長いので見てみてください。

この部屋には、ドレッサーの左横にピンク色の丸いものが置いてあります。ビクトリア時代、女性は、かもの毛をとい

た際に抜けた髪の毛も捨てませんでした。なので、抜けた髪の毛は、このような入れ物に入れて、保管されていました。ビクトリアの人々は、この髪の毛を使って、宝石のようなものや、髪の毛の花輪と呼ばれていたものを作っていました。あなたがこの部屋を出るときに、ドアの右側に髪の毛でできた花輪が見えるでしょう。このような髪の毛の花輪は、家族何人かの髪の毛を使って作られていたといわれています。これは、家族の繋がりを保つ良い方法でした。特に、亡くなった家族との繋がりを保つ時にもです。この時代、写真を撮ることはできましたが、とても高価だったので、家族全員の髪の毛を使って花輪をよく作られていました。また現在、亡くなった家族がいたら、写真で残しておきますが、当時は、このように花輪に髪の毛を使用して、写真の代わりにしていました。

アービング一家とブリックス一家の何人かの女の子たちは May Queen (メイ・クイーン) に表彰されました。May Day celebration は、毎年あったコミュニティの祭典のことです。1871年の5月、エリザベス・アービングが May Queen (メイ・クイーン) を受賞しました。

## ジョンの部屋

先ほど話しましたが、この時代、兄弟たちがしばしばお互いに寝室を共有していました。ジョンは、アービング一家で唯一の男の子だったので、幸運なことに自身の寝室があ

りました。この部屋は、若い男の人の一般的な部屋がどのようなものなのかを表しています。この部屋の奥の壁にワードローブと呼ばれるものが見えます。これは一般的に、ビクトリア朝のクローゼットで、個々の衣服やアクセサリを保管していました。ドレッサーの上には、トップハットや取り外し可能な袖口と襟があり、若い男性が日常で必要とするものがいくつか見えます。清潔で衛生的な衣服は、ビクトリア時代、人々にとってもっとも重要なことでしたが、今のようにはほぼ毎日洗濯はしていませんでした。なので、よく汚れてしまう部分、襟や袖口だけを洗濯していました。シャツの襟や袖口は取り外し可能になっており、これらはセルロイドというプラスチックの原料で作られていました。

## 銃弾のお話

ジョンの部屋を出て、奥に進むと、ドアフレームがあります。そのドアフレームの左の真ん中に小さな穴があります。この穴をのぞくと小さな金属の物体が見えます。これは、1896年の銃弾です。

ある寒い冬の夜の午前4時ごろ、2人の男たちがブリックス家に盗みに入ることを決めました。そのとき、ブリックス一家の子供の1人、ベリーがそのドアフレームの奥の寝室で寝ており、水を飲むために起き、反対側にある水を取りに行きました。ベリーは、階段を通るとき、不審な男に

気づきました。彼女は急いで父親と兄弟たちを起こし、数分で子供たちはみんな起き、手すりから覗いていました。その状況によって、侵入者のうちの1人がパニックに陥り、階段を下り始めていたトーマスに向かって発砲しました。家族に怪我をさせようとしたのか、それとも、怖がらせるために発砲したのかは、不明です。幸いにも、銃弾は外れ、ドアフレームに当たりました。

ブリックス一家は、このダメージを1度も修理しなかったため、現在もまだ、その弾丸はドアフレームに残ったままになっています。また、盗みに入った2人は、ブリッグス家から逃げ出すことは出来たが、総額約80ドル相当くらいしか盗めませんでした。泥棒たちが盗んでいくであろう物のいくつかは、玄関の床に残っていました。この事件について書かれた記事によると、捜査でこの泥棒たちは、居間の窓をこじ開け、そこから侵入していたという結論でした。また、朝、警察は家の外にあるブルズアイ・ランタンから、ドライバーとバーナー、そして、油槽を見つけました。この事件について書かれた記事は、・・・その記事は、将来、住民たちが泥棒から自分の家族を守るための措置をとるように警告しました。

1896年12月3日に発刊された記事は、後の警察の捜査の成功についていくつかの回答を提供しました。その記事によると、ブリッグス家で盗まれたいくつかの物は、空き家で見つかりました。警察のドミニーとミラーによる張り込みは、男がその家に入った午前6時に報われた。

## 家の奥の部屋

奥の部屋に移動するとき、奥の部屋のつくりがほかの部屋とは異なっていることに気づくでしょう。ウィリアム・アービングがこの家を建てたとき、この部屋は主に物置として使うつもりでいたそうです。ブリッグス家がこの家に引っ越してきたとき、実用的に使うために、生活するスペースとして使用していました。右側には、寝室にリフォームされた部屋があります。

廊下を挟んだ左側には、すべて杉から作られたリネン（麻）のクローゼットがあります。杉は、食料品室の蛾に対する天然の防虫剤として、リネンのクローゼットを建てる時の材料に選ばれていました。クローゼットの隣にお風呂場もあります。この部屋は、お風呂場の余っている場所にトイレを設置しているので、お風呂とトイレが別れています。1906年、ついにその家に水道が通り、水が使えるようになったため、その場所をお風呂場として改築したのでしょう。そして、その残りのスペースは、現在、私たちは、子供の教育プログラムのために使用しています。もしかすると、この場所は当時、ブリッグス一家が仕事場として使用していたのではないかと、いわれています。

このエリアにも階段があり、そこから下に戻ることができます。これは、使用人の階段と呼ばれています。ブリッグス一家がこの家に住んでいるとき、コックを含め、3人の



中国人の使用人を雇っていました。これは、使用人たちが仕事をしているときに、家族の邪魔にならないように使用されてきました。階段を下りたら気づくのですが、その階段は信じられないほどうまく作られていることがわかります。ビクトリア時代、使用人専用階段を使用する人に対する、安全性にほぼ関心がなかったため、その階段に仕官とお金を十分に費やすことは、比較的稀でした。実際、この階段がうまく作られているのは、家族がその階段を使っていたのではないかとされています。

## 台所

階段を降り、左の方に 2 つ扉があり、奥の扉が台所です。この台所には、ビクトリア時代の鋳鉄製のコンロがあり、木材や石炭を燃やしていました。そのコンロは、1915 年のもので、ブリッグス家のオリジナルです。コンロの前には、温度計がありますが、当時、ほとんどの女性が熱を感じ取り、温度を知る方法を知っていました。このコンロは、料理のほかに、寒い時期に部屋を温める役割も果たしていました。夏の暑い時期は、夏専用の台所で行われており、その台所はバックポーチ<sup>?</sup>か地下にあったのではと、推測されています。台所にある机には、バターを作るためのちょっとした道具や、卵を混ぜる道具など、当時の様々なキッチン用品があります。また、未発達のパンを作る機械や、後ろの机には、クランクハンドル付きの金属のバケツに似た外見の包丁を洗う機械もあります。この包丁を洗う機械

は、上の部分から包丁の刃を入れ、外側についているクラックハンドルを回して、この機械の中の部分を回転させます。その機械のブラシには、刃を研磨するエメリ化合物が含まれており、使用人の手助けになると知られていました。

## ダイニングルーム

隣の部屋に通じているドアを通ると、ダイニングルームにたどり着きます。ビクトリア時代のスタイルとして、部屋の下の木造部分には、ダークウッドが塗られており、部屋が小さく見えるようになっていました。現在、青色に塗られた壁は、博物館になってから塗られました。コロンビアの新聞には、この部屋で開かれた贅沢なパーティーについての記事がたくさんあります。メアリー・ブリッグスは、ここでおもしろい事をたくさんしました。彼女は、たくさんのディナーパーティーやソーシャルパーティー<sup>?</sup>を開いていました。

主食は、学校や仕事の数時間の休憩でみんなが帰宅したお昼に食べていたといわれています。ビクトリアの人々はよく食べていました。お肉を取り分けて、みんなに配るのは、当主の役目でしたので、テーブルで1番偉い人が座るところに座っていました。その腕置きがついているいすのところですか。そして、当主の妻は、当主が座っている向かい側に座り、野菜を取り分けるという役目がありました。訪問者の中で、1番位の高い人は、当主の右側に座っていま

した。なぜなら、右側に座っている人から、取り分けた料理を配っていたからです。そのあとに、残りの人たちにも、料理を配っていきました。すべての人に配り終えたあと、お礼を唱え、女性はダイニングルームを出て行き、男性はそのまま、ダイニングルームに残りました。そして、ポートやフルーツ、ナッツを食べながら、ビジネスについて話していました。

この部屋にもクローゼットがあります。このクローゼットは、執事のパントリーといわれています。この部屋は、もともと今の電気や空調の調節室に繋がっていたといわれています。また、

## 図書室

ダイニングルームを出て、玄関のほうに歩いていくと、右側に図書室があります。この部屋は、事務所や男性たちが過ごす部屋だったと考えられています。なので、女性がこの部屋に入ることが許されるのは、部屋を掃除するときのみでした。

この部屋の入り口のアーチは、**1900**年代の初めに行われたリフォームで設置されたと考えられています。その前は、この部屋にもシンプルなドアがありました。そのカーテンは、ドラフトカーテンと呼ばれていて、**1990**年代に、ミュージアムの従業員によって取り付けられました。しかし、ブリッグス家の人たちが、実際にこのようなカーテンをつ

けていたかは、不明です。このようなカーテンは、暖炉の暖かさを部屋にとどめておくだけではなく、喫煙の助けになっていました。

そして、この部屋には、ファーストネーションのバスケットがいくつかあります。これらのようなバスケットは、ファーストネーションの女性たちが作って、戸口で売られていたといわれています。そのバスケットは通常、古着やコーヒー、紅茶やお砂糖などと取引されてきました。メアリー・ブリッグスはバスケットが大好きで、たくさんのバスケットを持っていました。メアリーは、バスケットにいっぱいのお花を入れ、家の中においていました。また、メアリーは、**1912**年のベリルとウォルターの結婚式のレセプションの間、結婚式の贈り物を家で展示するために、バスケットを使用しました。多くの美しい贈り物が展示されていた大きな部屋には、バラの入ったインド風のボールで図書室や玄関にあるディスプレイの隙間に置きました。残念なことに、メアリーが集めていたバスケットはないですが、メアリーが集めたバスケットの写真があります。その写真は、おかむらという名前の日本人が撮影したもので、図書室の向かい側の壁にその写真があります。

部屋の奥には、イタリアのルカ・マドラッシによって作られた**1887**年版のプレミア・チャージン（最初の悲しみ）の彫刻があります。その彫刻は、**1914**年に電気が通ったので、ブリッグス一家が家にその彫刻を持ち込んだといわれています。

## 祖母の部屋

最後の部屋は、祖母の部屋です。この部屋は、図書館の向かい側にあります。未亡人のエリザベス・アービングが娘のメアリー・ブリッグスにこの家を売り、ポートランドに戻った後、エリザベスがこの家に訪れたときに滞在していた部屋です。エリザベスは頻繁にこの家に訪れていたため、この部屋は階段を使う必要がない場所にあるので、高齢の女性の寝室として使うのに、とても便利でした。また、この家には、9人の子供がいるので、エリザベスにとってこの部屋はとても静かだったでしょう。

この部屋は、この家族が軽食を取るときにも使われることがあったため、“モーニングルーム”または“ブレックファートルーム”と呼ばれることもあります。また、この部屋は、お茶パーティーを開くときにも使用されていました。この部屋は、現在、“モーニングルーム”として飾りつけされており、お客さんがいないとき、ブリッグス家の女性は、多くの時間をこの部屋で過ごすことが多かったそうです。また、子供たちもこの部屋に入ることを許されており、現在のファミリールームと比較できるでしょう。

現在、この博物館では、この部屋でクリスマスと母の日にティーパーティーを催しており、参加した人たちは、ビクトリア様式のティーや軽食を楽しんでいただけるようになっています。

## おわりに

これでアービングハウスのガイドツアーは終了です。楽しんでいただけたでしょうか？もし、お時間がございましたら、図書室の前の机にゲストブックがあるので、サインやコメントを書いていってください。また、当博物館への寄付もしていただければ幸いです。

本日は、アービングハウスにお越しいただき、ありがとうございました。この後もニューウェストで楽しい時間を過ごしてくださいね!!